

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）2年	科目名	生理学Ⅲ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	大川 照明	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 消化管の各部位における消化メカニズムを説明できる。 2. 消化管ホルモンをあげ、その役割を説明できる。 3. 各栄養素の意義と代謝を説明できる。 4. エネルギー代謝を説明できる。 5. 男女生殖機能を説明できる。			評価方法			
授業概要	生理学Ⅰ、Ⅱで学習した内容の理解を深めると共に、実際に国家試験問題を解くことによって、知識の整理及び国家試験のための生理学の傾向をつかむ事ができる。			定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	過去10年間の国家試験問題	使用器材	パソコン				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	ガイダンス、栄養と代謝						
第2週	消化と吸収						
第3週	体液・血液						
第4週	循環器						
第5週	腎・泌尿器						
第6週	内分泌						
第7週	体温調節						
第8週	呼吸器						
第9週	骨・筋肉						
第10週	脳・神経						
第11週	記憶と睡眠						
第12週	感覚器						
第13週	生殖						
第14週	細胞と遺伝						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	復習は、その日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部） 2年	科目名	機能解剖学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	大川 照明	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 上肢帯の骨の各名称を説明でき、触診ができる。 2. 下肢の骨の名称を説明でき、触診ができる。 3. 上肢帯の筋の名称を説明でき、触診ができる。 4. 下肢の筋の名称を説明でき、触診ができる。 5. 体幹の筋の名称を説明でき、触診ができる。			評価方法			
授業概要	解剖学で学んだ上肢・下肢・体幹の骨・筋の知識を基に、人体での触診を実習することにより、実際に作業療法士に必要な触診技術、治療に必要なアプローチの仕方を学ぶ。			定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢・下肢・体幹)	使用器材	実習衣、水性マジック				
週	授業項目・内容			実施結果			
第1週	骨の触診 その1	◎ポイント:上肢帯の骨の触診					
第2週	骨の触診 その2	◎ポイント:上肢帯の骨の触診					
第3週	骨の触診 その3	◎ポイント:下肢の骨の触診					
第4週	骨の触診 その4	◎ポイント:下肢の骨の触診					
第5週	骨の触診 その5	◎ポイント:体幹の骨の触診					
第6週	筋の触診 その1	◎ポイント:上肢帯の筋の触診					
第7週	筋の触診 その2	◎ポイント:上肢帯の筋の触診					
第8週	筋の触診 その3	◎ポイント:下肢の筋の触診					
第9週	筋の触診 その4	◎ポイント:下肢の筋の触診					
第10週	筋の触診 その5	◎ポイント:体幹の筋の触診					
第11週	筋の触診 その6	◎ポイント:体幹の筋の触診					
第12週	靭帯の触診	◎ポイント:靭帯の触診					
第13週	疾患との関連性	◎ポイント:疾患との関連性					
第14週	疾患との関連性	◎ポイント:疾患との関連性					
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	復習は、その日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）2年	科目名	中枢神経系作業療法学Ⅰ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院で整形外科・内科・外科勤務歴11年	担当	三好 和則	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	①中枢疾患(脳血管障害, 頭部外傷), 整形外科疾患(脊髄損傷)等の各疾患の障害像を説明できる。 ②各疾患の作業療法評価およびゴール設定を組み立てることができる。 ③各疾患の作業療法アプローチを組み立てることができる。			評価方法			
授業概要	本講座では脳卒中、頭部外傷、脊髄損傷に対する作業療法の基本的な介入について解説し、各疾患別による障害の症状や病態像、評価、作業療法介入・治療・訓練について学習する。また、各疾患に関連する基本的知識や、治療原理、社会サービスの適応についても学び、具体的な介入方法や基本技術を習得する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	作業療法技術ガイド 身体機能作業療法学	使用器材	パソコン				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	脳卒中(1)	脳卒中の概要、医学的治療と作業療法との関連について学びます。					
第2週	脳卒中(2)	目標設定、目標達成時期、予後予測について学びます。					
第3週	脳卒中(3)	一般的な評価について学びます。					
第4週	脳卒中(4)	急性期プログラムについて学びます。					
第5週	脳卒中(5)	回復期プログラムについて学びます。					
第6週	脳卒中(6)	生活期(維持期)プログラム、退院後の生活について学びます。					
第7週	頭部外傷(1)	頭部外傷の医学的治療と作業療法の関連について学びます。					
第8週	頭部外傷(2)	目標と一般的な評価について学びます。					
第9週	頭部外傷(3)	作業療法プログラムについて学びます。					
第10週	脊髄損傷(1)	医学的治療と作業療法との関連について学びます。					
第11週	脊髄損傷(2)	一般的な評価について学びます。					
第12週	脊髄損傷(3)	急性期での目標とプログラムについて学びます。					
第13週	脊髄損傷(4)	回復期での目標とプログラムについて学びます。					
第14週	脊髄損傷(5)	社会復帰期での目標とプログラムについて学びます。					
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	1.講義に臨む前は教科書の該当個所を読んでおき、わからない所があったらそれらを書き出しておくこと。 2.復讐は、特にその日の授業の授業の重要事項をその日のうちに振り替えること。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）2年	科目名	中枢神経系作業療法学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院で整形外科・内科・外科勤務歴11年	担当	三好 和則	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	①難病疾患（脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、Parkinson病）の障害像を理解する。 ②各疾患の作業療法評価およびゴール設定を理解する。 ③各疾患の作業療法アプローチについて理解する。			評価方法			
授業概要	日常臨床で遭遇する可能性の高い神経疾患（脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、Parkinson病）を中心に、その病因、病態、診断、治療について学習し各疾患への理解を深めることを目的とする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	作業療法技術ガイド 身体機能作業療法学	使用器材	パソコン				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	神経難病について	神経難病とは、について理解・学習する。					
第2週	パーキンソン病(1)	パーキンソン病とは、医学的治療と作業療法の関連について学びます。					
第3週	パーキンソン病(2)	評価及び目標について学びます。					
第4週	パーキンソン病(3)	一般的なプログラムについて学びます。					
第5週	脊髄小脳変性症(1)	脊髄小脳変性症とは、医学的治療と作業療法の関連について学びます。					
第6週	脊髄小脳変性症(2)	評価及び目標について学びます。					
第7週	脊髄小脳変性症(3)	一般的なプログラムについて学びます。					
第8週	筋萎縮性側索硬化症(1)	筋萎縮性側索硬化症とは、医学的治療と作業療法の関連について学びます。					
第9週	筋萎縮性側索硬化症(2)	評価及び目標について学びます。					
第10週	筋萎縮性側索硬化症(3)	一般的なプログラムについて学びます。					
第11週	多発性硬化症(1)	多発性硬化症とは、医学的治療と作業療法の関連について学びます。					
第12週	多発性硬化症(2)	評価及び目標、一般的なプログラムについて学びます。					
第13週	ギランバレー症候群(1)	ギランバレー症候群とは、医学的治療と作業療法の関連について学びます。					
第14週	ギランバレー症候群(2)	評価及び目標、一般的なプログラムについて学びます。					
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	1.講義に臨む前は教科書の該当箇所を読んでおき、わからない所があったらそれらを書き出しておくこと。 2.復讐は、特にその日の授業の授業の重要事項をその日のうちに振り替えること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）2年	科目名	作業療法評価学演習(OSCE)	授業時期	後期→前期	授業時数	30
実務経験	病院で実習生指導経験歴9年	担当	三好 和則	授業方法	演習	単位数	2
到達目標	①指定された検査を理解している ②即座に行動が出来る ③適切に患者さまの状態を把握することが出来る ④正確にオリエンテーションが出来る ⑤指定された時間内に安全に実施できる			評価方法			
授業概要	臨床現場を想定し、これまで習ってきた基本評価を、実際に患者さまを想定して、実演できる技能を習得します。作業療法学科全教員で指導して、臨床現場で対応する学生になる。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PT・OTのための臨床技能とOSCE	使用器材					
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	オリエンテーション	患者さまを想定し、安全・正確・短時間で出来る。					
第2週	リスク管理	患者さまを想定し、安全・正確・短時間で出来る。					
第3週	下肢装具の装着管理	患者さまを想定し、安全・正確・短時間で出来る。					
第4週	車いすの駆動介助	患者さまを想定し、安全・正確・短時間で出来る。					
第5週	移乗介助	患者さまを想定し、安全・正確・短時間で出来る。					
第6週	血圧と脈拍の測定	患者さまを想定し、安全・正確・短時間で出来る。					
第7週	関節可動域測定	患者さまを想定し、安全・正確・短時間で出来る。					
第8週	筋力測定	患者さまを想定し、安全・正確・短時間で出来る。					
第9週	形態測定	患者さまを想定し、安全・正確・短時間で出来る。					
第10週	感覚検査	患者さまを想定し、安全・正確・短時間で出来る。					
第11週	脳神経検査	患者さまを想定し、安全・正確・短時間で出来る。					
第12週	反射検査	患者さまを想定し、安全・正確・短時間で出来る。					
第13週	脳卒中の麻痺側運動機能評価	患者さまを想定し、安全・正確・短時間で出来る。					
第14週	運動失調検査	患者さまを想定し、安全・正確・短時間で出来る。					
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	1.講義に臨む前は教科書の該当個所を読んでおき、わからない所があったらそれらを書き出しておくこと。 2.復讐は、特にその日の授業の授業の重要事項をその日のうちに振り替えること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）2年	科目名	義肢装具学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	三好 和則	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	①義手・義足の基礎知識について理解する。 ②補装具の支給体系について理解する。 ③装具の種類と適応について理解する。 ④スプリントの製作工程について理解する。 ⑤基本的なスプリントが製作できる。			評価方法			
授業概要	義肢・装具、スプリントは障害を持つ人々のリハビリテーションや疾患に対する治療方法の一手段として広く用いられている。まずは義肢装具の基礎知識を習得し、臨床的な側面について理解を深めることを目標とする。			期末試験 100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	義肢装具と作業療法、身体機能作業療法学、作業療法評価学、作業療法技術ガイド	使用器材	パソコン、液晶プロジェクター、マイク				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	義手(1)	切断について、義手の基本構造・分類・部品について理解・把握する。					
第2週	義手(2)	装飾用義手・能動義手・作業用義手のしくみについて理解する。					
第3週	義手(3)	義手の適合判定(チェックアウト)を理解・把握する。					
第4週	筋電義手	筋電義手について理解する。					
第5週	装具について	上肢装具/スプリントについて目的と意義を理解・学習する。					
第6週	上肢装具	代表的な上肢装具の種類などを理解・学習する。					
第7週	下肢装具	目的と意義、装具の種類などを理解・学習する。					
第8週	スプリント(1)	作製方法と一般的な工程などを理解・学習する。					
第9週	スプリント(2)	コックアップスプリントを作成できる。					
第10週	疾患別装具・スプリント(1)	脳卒中・頸髄損傷で用いる装具・スプリントを学習する。					
第11週	疾患別装具・スプリント(2)	関節リウマチで用いる装具・スプリントを学習する。					
第12週	疾患別装具・スプリント(3)	骨折で用いる装具・スプリントを学習する。					
第13週	疾患別装具・スプリント(4)	腱損傷で用いる装具・スプリントを学習する。					
第14週	疾患別装具・スプリント(5)	末梢神経損傷で用いる装具・スプリントを学習する。					
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	1.講義に臨む前は教科書の該当箇所を読んでおき、わからない所があったらそれらを書き出しておくこと。 2.復讐は、特にその日の授業の授業の重要事項をその日のうちに振り替えること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）2年	科目名	筋骨格障害系作業療法学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	整形外科・内科等病院勤務歴11年	担当	三好 和則	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	①整形疾患の特徴を理解する。 ②整形疾患の作業療法を理解する。 ③整形疾患のプログラムについて把握できる。			評価方法			
授業概要	整形外科関連の対象に対して、疾患の基礎知識と作業療法評価、治療を理解する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	作業療法技術ガイド 身体機能作業療法学ほか	使用器材	配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	廃用症候群	廃用症候群の引き起こす状況と身体への影響と対応について学ぶ。					
第2週	骨折(1)	作業療法に関連する骨折に関する概要を学ぶ。					
第3週	骨折(2)	一般的な作業療法評価について学ぶ。					
第4週	骨折(3)	作業療法の目標とプログラムについて学ぶ。					
第5週	加齢性関節疾患	肩関節周囲炎・手指変形性関節症・変形性股関節症・変形性膝関節症の作業療法評価、指導、援助を学ぶ。					
第6週	末梢神経損傷(1)	末梢神経損傷の種類と分類について学ぶ。					
第7週	末梢神経損傷(2)	一般的な評価、アプローチについて学ぶ。					
第8週	全身性エリテマトーデス 多発性筋炎・皮膚筋炎	全身性エリテマトーデス、多発性筋炎、皮膚筋炎の概要・作業療法の関わりについて学ぶ。					
第9週	腱損傷(1)	手指腱損傷の概要について学ぶ。					
第10週	腱損傷(2)	作業療法プログラムについて学ぶ。					
第11週	熱傷(1)	熱傷の概要について学ぶ。					
第12週	熱傷(2)	作業療法プログラムについて学ぶ。					
第13週	重症筋無力症(1)	重傷筋無力症の概要と評価について学ぶ。					
第14週	重症筋無力症(2)	作業療法の目標とプログラムについて学ぶ。					
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	1.講義に臨む前は教科書の該当箇所を読んでおき、わからない所があったらそれらを書き出しておくこと。 2.復讐は、特にその日の授業の授業の重要事項をその日のうちに振り替えること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）2年	科目名	作業療法評価学Ⅲ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	三好 和則	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	①疾患の評価を把握できる ②疾患評価を実施できる ③疾患の評価の流れを把握できる			評価方法			
授業概要	作業療法士として、患者さまの状態を把握できることは重要である。基本評価と疾患特有の評価を学び、患者さまの状態を把握することを学ぶ。			期末試験 80% 授業態度 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準 作業療法評価学	使用器材	パソコン、パワーポイント				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	脳血管障害・頭部外傷(1)	脳画像・血圧・心拍・JCS・GCS					
第2週	脳血管障害・頭部外傷(2)	ブルンストロームステージ・FMA・SIAS					
第3週	脳血管障害・頭部外傷(3)	MAS・Rancho Los Amigos Hospitalの痙縮評価					
第4週	脳血管障害・頭部外傷(4)	ICARS、SARA、Ten Second Test、WMFT、MFT、STEF					
第5週	脳血管障害・頭部外傷(5)	HDSR、MMSE、SLTA、BIT、SPTA、VPTA、SDS					
第6週	脳血管障害・頭部外傷(6)	FAB、BADs、WCST、MAL					
第7週	脊髄損傷(2)	評価すべき項目を把握し、実演できる。 (ASIA分類・Frankel分類・Zancolli分類)					
第8週	脊髄損傷(3)	評価のポイントを把握できる。					
第9週	関節リウマチ(1)	評価すべき項目を把握し、実演できる。 (関節変形)					
第10週	関節リウマチ(2)	フェイススケール・MHAQ・MOS36					
第11週	神経変性疾患(1)	パーキンソン病・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症の評価が出来る。					
第12週	神経変性疾患(2)	パーキンソン病・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症の評価が出来る。					
第13週	神経変性疾患(3)	パーキンソン病・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症の評価が出来る。					
第14週	重傷筋無力症	MGFA分類					
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	1.講義に臨む前は教科書の該当箇所を読んでおき、わからない所があったらそれらを書き出しておくこと。 2.復讐は、特にその日の授業の授業の重要事項をその日のうちに振り替えること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）2年	科目名	精神障害評価学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院精神科勤務歴15年	担当	山下 眞智子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1.精神障害領域の作業療法の流れを理解する。 2.質的評価、量的評価の方法について理解する。 3.各評価実施後の評価のまとめ方について理解する。 4.目標設定、プログラム立案について理解する。			評価方法			
授業概要	精神科領域におけるリハビリテーションについて学び、その中での実践や理論等を通して理解できるようになる。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	精神障害作業療法学	使用器材					
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	精神科障害に対する作業療法とは/精神医学の歴史						
第2週	精神科における作業とは/グループワーク						
第3週	精神科における作業療法評価とは/グループワーク、発表						
第4週	精神科作業療法における評価の流れ/グループワーク(観察)						
第5週	観察(講義)/グループワーク(情報収集)						
第6週	情報収集(講義)/面接(グループワーク)						
第7週	面接(講義)/面接(ロールプレイ)						
第8週	テストバッテリー(LASMI)						
第9週	テストバッテリー(NPI)						
第10週	ICF及びその活用						
第11週	全体像のまとめと焦点化						
第12週	目標設定						
第13週	プログラム設定						
第14週	症例						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	授業の復習を行う。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）2年	科目名	精神障害評価学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院精神科勤務歴15年	担当	山下 眞智子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1.精神障害領域の疾患ごとの評価方法について理解する。 2.評価実習、臨床実習に備えた評価の実践方法、報告書の書き方等を学ぶ。			評価方法			
授業概要	精神科作業療法の評価について前期履修した内容を踏まえ、各疾患ごとの評価について学び、臨床実習等の諸場面に対応できるようにする。			期末試験 70% 症例レポート 30% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	精神障害作業療法学	使用器材					
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	精神科 評価尺度 ①						
第2週	精神科 評価尺度 ②						
第3週	精神科 評価尺度 ③						
第4週	精神科における作業療法理論						
第5週	精神科における作業活動						
第6週	精神科作業療法の間						
第7週	外来作業療法						
第8週	精神科デイケア、ナイトケア、ショートケア						
第9週	精神療養病棟 認知症治療病棟						
第10週	作業所 グループホーム						
第11週	包括的生活支援プログラム						
第12週	実習対策 記録						
第13週	症例研究のまとめ方						
第14週	症例研究のまとめ方						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	後半、症例レポートの提出指示があります。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）2年	科目名	精神障害治療学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院精神科勤務歴15年	担当	山下 眞智子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1.精神科作業療法の疾患ごとの治療について理解する。 2.精神科作業療法、疾患別治療の流れ 3.症例検討 4.国試問題を理解する。			評価方法 期末試験 100% （100点換算で60点以上で合格）			
授業概要	精神科の各疾患ごとの治療の流れを理解し、それらに対してどのような作業療法がなされているかを疾患ごとに理解する。また、併行して国試問題にも取り組む。						
教科書等	精神障害作業療法学	使用器材	必要に応じてPC その他				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	疾患別治療(統合失調症)①						
第2週	疾患別治療(統合失調症)②						
第3週	気分障害①						
第4週	気分障害②						
第5週	依存症候群 ①						
第6週	依存症候群 ②						
第7週	神経症候群 ①						
第8週	神経症候群 ②						
第9週	パーソナリティ障害						
第10週	発達障害						
第11週	てんかん						
第12週	国試問題						
第13週	国試問題						
第14週	症例検討						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	国試問題を疾患ごとに提示しますので各自で解いてみる。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）2年	科目名	神経内科学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	山下 眞智子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1.各神経内科疾患の特徴、病理・治療・リハビリテーションについて理解する。 2.神経内科、リハビリテーション領域で行われる、各種評価について理解する。			評価方法			
授業概要	リハビリテーション分野で多くの比率を占める神経内科分野の疾患について学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準PT学・OT学専門基礎分野 神経内科学	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	神経学的診察						
第2週	画像診断と検査						
第3週	意識障害						
第4週	運動の障害 錐体路						
第5週	運動の障害 錐体外路						
第6週	脳波とてんかん						
第7週	脳幹の障害						
第8週	脳神経の障害①						
第9週	脳神経の障害②						
第10週	脊髄疾患						
第11週	小児神経疾患						
第12週	排尿障害						
第13週	神経系の感染症						
第14週	総括 復習						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	国試問題を疾患ごとに提示しますので各自で解いてみる。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）2年	科目名	高齢期作業療法治療学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院高齢期作業療法勤務歴10年	担当	松尾 賢	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 高齢期の身体的特徴を理解し、リハビリテーションに反映させることを目標とする。 2 認知症について深く理解し、臨床に反映させることを目標とする。 3 認知症における集団プログラムを理解し、即戦力を身に付けることを目標とする。			評価方法			
授業概要	高齢期とは何か、そして高齢期にみられる各障害に対する理解と、作業療法実践における知識を整理する。また、病気(疾患)と老化の違いを整理し、作業療法的視点での介入の仕方について学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準作業療法学 高齢期作業療法学	使用器材	パソコン、パワーポイント				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	「高齢期」作業療法とは(高齢期にみられる特徴とは)概要を理解する。						
第2週	老化の4原則(高齢期への適応)を踏まえ、老年期作業療法の特徴を理解する。						
第3週	現代社会と高齢化について(社会的背景を踏まえて)理解する。						
第4週	老年期の障害の特徴と問題について理解する。						
第5週	高齢者に多い疾患(認知症の概要)中核症状・周辺症状について理解する。						
第6週	高齢者に多い疾患(認知症の治療)アルツハイマー病、脳血管性認知症。						
第7週	高齢者に多い疾患(認知症への治療)レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症。						
第8週	認知症高齢者へのリハビリテーションのあり方について学習する。						
第9週	老年期障害と作業療法の特徴と効果について学習する。						
第10週	作業療法の役割と機能(集団プログラムを実施する際の留意点)について理解する。						
第11週	医療・福祉の枠組みと作業療法(作業療法の可能性)について理解する。						
第12週	作業療法の実際(論文や文献で確認をする)について理解を深める。						
第13週	認知症高齢者をとりまく社会資源について(フォーマル資源・インフォーマル資源)を含む。						
第14週	まとめ。期末試験対策。						
第15週	期末試験、解説。						
授業外学習指示等	講義前に、配布した資料スライドの確認すること。また、認知症に関する文献や論文を読み事前学習しておくこと。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）2年	科目名	高齢期作業療法治療学演習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院高齢期作業療法勤務歴10年	担当	松尾 賢	授業方法	演習	単位数	2
到達目標	1 高齢期の身体的特徴を理解し、介入方法を実践できる。 2 実技やグループワークを通して、自らの課題を認識することができる。 3 集団運営を通して、人を動かすことの難しさを知ることができる。			評価方法			
授業概要	脳血管障害、認知症を中心に老年期障害に対する作業療法を、日常生活に基づいた「機能維持」の介入。また、病院、施設入所者に対するアプローチの実際について学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準作業療法学 高齢期作業療法学	使用器材	パソコン、パワーポイント				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	「高齢期の特徴」とは。前期の講義を振り返り、ポイントを整理する。						
第2週	ボディメカニクス(心と身体の繋がりを実技を通して学ぶ。)						
第3週	基本的動作介入法（起居・移動・寝返り・起き上がり）①動作のコツを学ぶ。						
第4週	基本的動作介助法(起居・移動・起き上がり)②						
第5週	虚弱高齢者へのアプローチ①(食事動作におけるポイントを理解する。)						
第6週	虚弱高齢者へのアプローチ②(更衣動作におけるポイントを理解する。)						
第7週	虚弱高齢者へのアプローチ③(排泄動作・入浴動作の方法とポイントを理解する。)						
第8週	認知症高齢者へのアプローチ(介入方法と効果・注意点について理解する。)						
第9週	面接の心得(臨床で実施される様々な面接形態を体験を通して理解する)						
第10週	面接技法 評価(臨床に必要なスキルである為、学生間で繰り返し練習を行う)						
第11週	集団レク導入について(導入のポイントを経験を通して学ぶ。)						
第12週	集団レク実践について(実践を通して、集団の効果と運営の難しさを理解する。)						
第13週	集団レク実践レビュー(グループワークを展開し、改善是正点を認識できる。)						
第14週	まとめ。期末試験対策。						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	グループワークや実技を多様する為、事前準備を行い、かつ積極的に参加すること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）2年	科目名	精神医学Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	松尾 賢	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 精神科疾患の概要と特徴を理解することができる。 2 精神疾患の治療について理解することができる。 3 疾患と障害を併せ持つと言われる精神障害者について理解を深める。			評価方法			
授業概要	精神医学の基礎知識の確認と国家試験を概観しての対策及び作業療法士として知識や技術をどう使いこなすのかについて学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準PT・OT精神医学、資料配布	使用器材	パソコン、パワーポイント				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	統合失調症について1(統合失調症の概要を理解する事ができる)						
第2週	統合失調症について2(疾患の治療と経過について理解することができる)						
第3週	統合失調症について3(統合失調症に対するリハビリテーションについて理解できる)						
第4週	気分感情障害について1(気分障害の概要について理解することができる)						
第5週	気分感情障害について2(疾患の治療と経過について理解することができる)						
第6週	神経症性障害について1(不安障害や強迫性障害について理解を深めることができる)						
第7週	神経症性障害について2(パニック障害や社会不安障害等の理解を深めることができる)						
第8週	外因性精神病について(外因性精神病の特徴と概要を理解できる)						
第9週	てんかん(てんかん発作の種類と単純部分発作、複雑部分発作の理解ができる)						
第10週	認知症について1(アルツハイマー病と脳血管性認知症の理解ができる)						
第11週	認知症について2(レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症の理解を深めることができる)						
第12週	物質依存について(アルコール依存症、薬物依存症について理解できる)						
第13週	摂食障害について(神経性大食症と神経性無食欲症について理解できる)						
第14週	精神科作業療法について(期末試験対策も含む)						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	学習範囲が非常に広くまた精神科作業療法を行っていく上でも重要な基礎となる為、事前学習を怠らないこと						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）2年	科目名	地域作業療法学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	松尾 賢	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 地域作業療法と院内作業療法の違いについて理解することができる。 2 生活行為向上マネジメントの概要を理解することができる。 3 医学モデルと生活モデルの違いについて理解することができる。			評価方法			
授業概要	病院内リハから多様な場面へと活動の場を広げるOT,歴史や他国の現状も踏まえて今後の展開を学習します。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学	使用器材	パソコン				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	「地域」とは 作業療法士の資質と倫理（地域作業療法の重要性について理解できる）						
第2週	地域の理解、地域の流れ(地域で生活する為にどんなことが重要か理解できる)						
第3週	障害者の自立(自律と自立の違いについて理解できる)						
第4週	介護保険1(介護保険の成り立ちと歴史的背景について理解できる)						
第5週	介護保険2(制度の中身と改正点について理解することができる)						
第6週	ケアマネジメント(ケアマネジメントの重要性について理解できる)						
第7週	地域保健・福祉サービス(公的・私的社会的資源について理解することができる)						
第8週	諸外国の福祉事情(日本における医療・福祉の特徴を理解できる)						
第9週	生活行為向上マネジメントについて概要を理解できる						
第10週	生活行為向上マネジメント(症例を通して理解を深める)						
第11週	地域の社会的資源 と作業療法の繋がりを理解する						
第12週	サービス事業所の実際1						
第13週	サービス事業所の実際2						
第14週	まとめ(講義の振り返りと期末試験対策)						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	教科書だけでなく論文(先行研究)にも目を通してから授業に参加すること						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）2年	科目名	作業療法評価学Ⅳ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	松尾 賢	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 老年期の評価の概要について理解することができる。 2 老年期の評価の特徴について理解することができる。 3 信頼性・妥当性・再現性に基づく評価の実施ができる。			評価方法			
授業概要	評価の基礎と、高齢者領域での基本的な評価法を学び、作業療法実践に繋げていくことを学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	作業療法学ゴールドマスターテキスト3作 業療法評価学 資料配布	使用器材	パソコン、パワーポイント				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	脳と脊髄の働きについて理解することができる						
第2週	中枢神経と末梢神経の整理(働きについて理解することができる)						
第3週	錐体路と錐体外路(働きと特徴を理解することができる)						
第4週	反射の仕組みについて説明ができる						
第5週	片麻痺機能検査について理解することができる1						
第6週	片麻痺機能検査について理解することができる2						
第7週	バイタルサインの重要性を理解できる						
第8週	上肢動作能力について理解を深めることができる1						
第9週	上肢動作能力について理解を深めることができる2						
第10週	協調性検査について理解を深めることができる						
第11週	ADL検査の重要性について理解することができる						
第12週	高次神経障害について理解することができる						
第13週	認知症評価①(認知症評価の概要を理解できる)						
第14週	認知症評価②(評価バッテリーを使用して認知機能検査を実施する)					試験対策	
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	客観的視点に基づき、対象者にとって意味ある評価を実施することができる様、積極的に授業に参加すること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）2年	科目名	内部障害系作業療法学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院病棟・通所リハ・訪問リハ等経験9年	担当	樋口 浩幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 各内部障害に関する解剖学・生理学の知識を修得する。 2 各内部障害に対する評価法を修得する。 3 各内部障害に対する作業療法アプローチの知識を深める。			評価方法			
授業概要	各内部障害に対する作業療法を実施できることを目標とする。 具体的には、各疾病の特徴について理解し、その医学的治療、作業療法評価（検査）の選定、得られた検査・測定の結果を分析し、その病期にあった治療・指導・援助を立案することができる。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	図解 作業療法技術ガイド イラストで分かる 内部障害 他	使用器材	配布資料				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	内部障害とは 循環器の解剖と生理を理解する						
第2週	検査データ、心電図の見方を理解する						
第3週	虚血性心疾患とそれに対する作業療法アプローチについて理解する						
第4週	心不全とそれに対する作業療法アプローチについて理解する						
第5週	冠動脈・大動脈疾患とそれに対する作業療法アプローチについて理解する						
第6週	心臓リハビリテーションにおける運動療法と作業療法アプローチについて理解する						
第7週	呼吸器の解剖と生理を理解する						
第8週	呼吸器の生理、評価、病的呼吸を理解する						
第9週	閉塞性肺疾患とそれに対する作業療法アプローチについて理解する						
第10週	拘束性肺疾患とそれに対する作業療法アプローチについて理解する						
第11週	糖尿病とそれに対する作業療法アプローチについて理解する						
第12週	悪性腫瘍(がん)とそれに対する作業療法アプローチについて理解する						
第13週	サルコペニアとリハビリテーション栄養について理解する						
第14週	腎疾患と下部尿路機能障害と作業療法アプローチについて理解する						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	講義の中で確認問題を実施していく。適宜復習を行っていくこと。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）2年	科目名	職業リハビリテーション学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	樋口 浩幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 作業療法士に必要な職業関連活動に関する知識を修得する。 2 作業療法士に必要な職業関連活動に関する評価法を修得する。 3 作業療法士に必要な職業関連活動に対するアプローチの知識を深める。			評価方法			
授業概要	作業療法士が携わる職業リハビリテーションの現状と課題、評価法、アプローチ法を整理する。			期末試験 100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	作業療法学全書（職業関連活動）	使用教材	配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	職業関連活動概説（教科書 第1章）						
第2週	障害者と職業①（教科書 第2章）						
第3週	障害者と職業②（教科書 第2章）						
第4週	職業関連活動における作業療法①（教科書 第3章）						
第5週	職業関連活動における作業療法②（教科書 第3章）						
第6週	障害別就労支援の実際 統合失調症①（教科書 第4章）						
第7週	障害別就労支援の実際 統合失調症②（教科書 第4章）						
第8週	障害別就労支援の実際 うつ病①（教科書 第4章）						
第9週	障害別就労支援の実際 うつ病②（教科書 第4章）						
第10週	障害別就労支援の実際 身体障害①（教科書 第4章）						
第11週	障害別就労支援の実際 身体障害②（教科書 第4章）						
第12週	障害別就労支援の実際 高次脳機能障害（教科書 第4章）						
第13週	障害別就労支援の実際 知的障害（教科書 第4章）						
第14週	まとめ						
第15週	期末レポート解説						
授業外学習指示等	講義の内容を理解して、文章でまとめられるように適宜復習を行っていくこと。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）2年	科目名	生活環境論	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	通所リハ・訪問看護ステーション勤務歴有り	担当	樋口 浩幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 作業療法士に必要な福祉用具・福祉機器・住環境整備に関する知識を修得する。 2 作業療法士として福祉用具・福祉機器・住環境整備の知識を用いてアプローチすることができるようになる。			評価方法			
授業概要	障害者のノーマライゼーションに欠かせない生活環境を、地域における福祉用具・福祉機器の利用と住環境整備とに分け、わかりやすく教授し、住環境コーディネーター2級受験の足がかりの一助とする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	福祉用具の使い方・住環境整備	使用器材	配布資料				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	生活支援の視点と方法、基本動作に影響を与える環境因子						
第2週	起居関連の福祉用具						
第3週	移乗関連の福祉用具						
第4週	移動関連の福祉用具①						
第5週	移動関連の福祉用具②						
第6週	褥瘡防止関連の福祉用具						
第7週	入浴関連の福祉用具						
第8週	排泄関連の福祉用具						
第9週	食事・更衣・整容関連の福祉用具						
第10週	コミュニケーション関連の福祉用具・福祉機器						
第11週	住宅改修・住環境整備						
第12週	疾患別の福祉用具利用例・住環境整備例						
第13週	事例検討						
第14週	まとめ						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	講義の中で確認問題を実施していく。適宜復習を行っていくこと。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）2年	科目名	高次脳機能障害作業療法学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院勤務で脳疾患、リハビリ系勤務歴20年	担当	小淵 由美子 印	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 高次脳機能障害は脳損傷から多様な症状が生じる。責任病巣と脳の機能局在と症状を関連づけて考えることができる 2. 機能回復のメカニズムである可塑性について理解し、患者の症状を踏まえた社会復帰まで見通した作業療法を考えることができる 3. 各論の症状のメカニズムを理解して評価や治療に取り組める			評価方法			
授業概要	作業療法の対象として重要性を増す高次脳機能障害の基礎を理解する。脳解剖や脳機能及び障害のメカニズムについて学習し、複雑かつ個別性のある症状に応じた評価・治療まで体系的に実施できる知識を学ぶ。			期末試験：90% レポート等：10% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	高次脳機能作業療法学第2版 医学書院	使用器材	配布資料等				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	イントロダクション 脳損傷による高次脳機能障害の症状と大脳局在について概要を学ぶ。高次脳機能障害の主観的評価方法を実施する						
第2週	第1章 高次脳機能障害作業療法学の基礎：脳の側性化と利き手の関係と同一の場所が障害されても症状に違いがある脳の個性を学ぶ						
第3週	第1章 高次脳機能障害作業療法学の基礎：脳解剖と画像診断 脳解剖の基礎知識と大脳辺縁系と皮質下の核の解剖及び大脳辺縁系の役割について学ぶ						
第4週	第1章 III 評価と治療の流れ：評価と問題点の抽出の際の重要点や治療・指導・援助計画の立案、さらには地域生活への援助までの実践課程を学ぶ						
第5週	第2章 高次脳機能作業療法 症状と評価・治療 III 失語：DVD「失語症回復への道」視聴 症状や回復のメカニズムについて学ぶ						
第6週	第2章 高次脳機能作業療法 症状と評価・治療 III 失語：DVD「秘められた復元力」視聴 配布資料：私たちの身体の不思議「脳の可塑性」神経ネットワークは発達・進化することを学ぶ						
第7週	第2章 高次脳機能作業療法 III 失語のメカニズム：ウエルニッケリヒトハイムの図式を理解し失語タイプの分類を学ぶ						
第8週	第3章 高次脳機能作業療法に対する作業療法の実際 III 失語事例から失語症者とのコミュニケーションを学ぶ：演習とグループワーク						
第9週	第2章 高次脳機能作業療法 症状と評価・治療 IV 失行DVD視聴：症状の特徴を理解する						
第10週	第2章 高次脳機能作業療法 症状と評価・治療 IV 失行のメカニズムについてリープマンの水平図式を学ぶ						
第11週	第2章 高次脳機能作業療法 症状と評価・治療 IV 失行DVD視聴：その他の行為の障害について特徴を理解し、責任病巣からメカニズムを学ぶ						
第12週	第3章 高次脳機能作業療法に対する作業療法の実際 IV 失行：失行に対する作業療法を実施できるようになるため症例を通してその実際を学ぶ：演習とグループワーク						
第13週	第2章 高次脳機能作業療法 症状と評価・治療 V 失認（障害認知の障害） 視覚失認のケースから作業療法での注意点や対応策を学ぶ						
第14週	前期総括・期末試験対策						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	高次脳機能障害は難しいと思われがちですが、動画など活用して理解が深まるように学んでいきます。作業療法士として働く際に必要な分野です興味を持って学習して下さい						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部） 2年	科目名	高次脳機能障害作業療法学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院勤務で脳疾患、リハビリ系勤務歴20年	担当	小淵 由美子 印	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 各論の症状のメカニズムを理解して評価や治療に取り組める 2. 症例や演習をとおして学んだ評価法や治療について、臨床で活用できる 3. 対象者の症状や環境を考慮し、生活上の困難を解決するための作業療法を柔軟に展開することができる			評価方法			
授業概要	高次脳機能作業療法の評価・治療まで体系的に学ぶ。様々な障害や症状のメカニズムを理解した作業療法を実践できるように知識を深め、症例を通じて臨床に応用できる治療法を学ぶ			期末試験 90% レポート等 10% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	高次脳機能作業療法学第2版 医学書院	使用器材	視聴覚機器の使用、配布資料等				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	第2章 VI:失認(対象認知の障害)に対する作業療法 特定の感覚様式の失認の1つである視覚失認の3つに分類について学ぶ						
第2週	第2章 VI:失認(対象認知の障害)に対する作業療法: 視覚失認の責任病巣とメカニズム、評価方法や治療について学ぶ						
第3週	第2章 VI:失認(対象認知の障害)に対する作業療法 身体に関連する(認知障害としての)失認について種類やそれぞれの責任病巣やメカニズムについて学ぶ						
第4週	視覚:失認について症例をとおしてその実際を学ぶ						
第5週	DVD視聴:脳が世界を作る 視覚情報の処理や立体視、同名半盲について学ぶ						
第6週	第2章 VI半側空間無視 DVD視聴:面接所見から高次脳機能障害の推測 半側空間無視の行動の特徴や机上検査から得られる症状を学ぶ						
第7週	第2章 VI半側空間無視 :責任病巣と代表的な4つのメカニズムと治療を学ぶ DVD:半側空間失認の後遺症との闘い 重複する症状とリハビリテーションについて学ぶ						
第8週	半側空間無視について症例をとおしてその実際を学ぶ						
第9週	第2章 I 注意障害 評価方法について演習						
第10週	第2章 I 注意障害 注意の分類と注意障害について学ぶ トップダウンアプローチ:自己教示法について演習						
第11週	第2章 II 記憶障害:定義と分類、責任病巣を学ぶ。 記憶障害のリハビリテーションストラテジー:誤りなし学習について演習						
第12週	第2章 VII 遂行機能障害:分類と遂行機能障害の構成要素について学ぶ						
第13週	第2章 VIII 社会的行動障害:社会的行動障害の分類と責任病巣について学ぶ 第4章 高次脳機能障害と社会復帰支援:高次脳機能障害支援事業の背景と診断基準						
第14週	全体総括と試験対策						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	評価法や治療方法の演習も取り入れて学習を深めていきます。講義で国家試験問題なども実施します。 知識や技能を深め、臨床で自信を持って行動できるように学習して下さい						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部） 2年	科目名	日常生活活動学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	林 あゆみ	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活活動について、概念と各動作項目の構成要素を理解し覚える事ができる。 ADL活動分析ができる。 			評価方法			
授業概要	日常生活活動について、概念と各動作項目の構成要素を学ぶ。目標は、「心身障害のADLを理解、評価を行い、治療アプローチを行う」「国家試験に対応できる知識を習得する」です。			期末試験 80% 提出物 20% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	日常生活活動学 評価と支援の実際	使用器材	パソコン、液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	ADLとは？（概念・意義・範囲）						
第2週	生活関連活動						
第3週	ADL評価の重要事項						
第4週	プログラムに必要な情報						
第5週	活動の構成要素 食事, 排泄, 整容, 入浴, 更衣						
第6週	活動の構成要素 食事, 排泄, 整容, 入浴, 更衣（活動分析）						
第7週	活動分析 発表						
第8週	活動分析 発表						
第9週	疾患別生活関連活動						
第10週	自助具について ふくふくプラザ見学						
第11週	自助具作成						
第12週	自助具作成発表						
第13週	コミュニケーションについての障害						
第14週	症例						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	ふくふくプラザ見学						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）2年	科目名	日常生活活動学演習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	林 あゆみ	授業方法	演習	単位数	2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 心身障害(疾患別)のADLを理解する。 ADL評価ができる。 			評価方法			
授業概要	作業療法士は障害を持つ対象者の日常生活活動を改善する役割を果たさなければならない職種であり、また、それが求められている。よって、より広い視野を持ち、より広い生活を援助していく為の知識・技術・態度を理解していく。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	日常生活活動学 ー評価と支援の実際ー	使用器材	資料(FIMの実際 等)				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	日常生活活動(基本動作含む)とは セルフケアとは						
第2週	疾患別ADLー(脳血管障害)						
第3週	疾患別ADLー(脳血管障害、脊髄小脳変性症)						
第4週	疾患別ADLー(筋委縮性側索硬化症、脊髄損傷)						
第5週	疾患別ADLー(脊髄損傷、関節リウマチ)						
第6週	起居動作分析(寝返り、起き上がり)						
第7週	生活関連動作とは						
第8週	生活関連動作分析 1						
第9週	生活関連動作分析 2						
第10週	ADL評価 - 1 (Berthel INDEX、FIM)						
第11週	ADL評価 - 2 (FIM)						
第12週	ADL評価 - 3 (FIM)						
第13週	まとめ 1						
第14週	まとめ 2						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	実技テストを実施します。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）2年	科目名	発達作業療法学 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	発達障害研究所を開設運営	担当	吉村 幸子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 「子どもの発達」を理解する。 2 発達障害領域における作業療法の歴史を知る。 3 発達障害児者を取り巻く環境を理解し、作業療法について総合的に理解し説明できる。 4 発達障害における作業療法士の役割と社会的な位置づけを考える。			評価方法			
授業概要	定型発達について、運動発達及び社会性の発達など発達全般を学習するものである。発達障害領域での作業療法実践に必要な知識とその役割を総合的・体系的に学習するものである。			期末試験 90% 授業態度 10% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学	使用器材	PC、液晶プロジェクター、配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	発達過程作業療法学の基礎（1）						
第2週	発達過程作業療法学の基礎（2）						
第3週	発達過程作業療法の実践過程及び記録						
第4週	発達過程作業療法の地域支援						
第5週	運動発達論 新生児 生まれてから二足歩行に至るまでの運動発達を詳しく学習する。						
第6週	運動発達 2ヶ月～6ヶ月						
第7週	運動発達 7ヶ月～独歩						
第8週	手の発達 手の発達を姿勢の発達と関連させて学習する。						
第9週	社会性の発達 対人関係・言語・遊びについて詳しく学習する。						
第10週	食事動作の発達（1） 食事動作について演習する。						
第11週	食事動作の発達（2）						
第12週	子どもの描画について 検査方法のひとつとしての「描画」を学習する。						
第13週	感覚統合療法						
第14週	発達検査						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 2 授業内容を復習し、疑問点があれば次の授業で質問すること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）2年	科目名	発達作業療法学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	発達障害研究所を開設運営	担当	吉村 幸子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 「発達障害」及び「運動障害」を理解する。 2 それぞれの障害について、基本的な作業療法の知識を修得し理解する。			評価方法			
授業概要	「運動障害」及び「発達障害」について、作業療法士としての役割と技術を学習するものとする。			期末試験 90% 授業態度 10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学	使用器材	PC、液晶プロジェクター、配布資料				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	精神発達遅延						
第2週	精神発達遅延						
第3週	自閉症スペクトラム						
第4週	自閉症スペクトラム						
第5週	学習障害						
第6週	注意欠如／多動性障害						
第7週	脳性麻痺						
第8週	脳性麻痺						
第9週	重症心身障害						
第10週	新生児疾患						
第11週	進行性筋ジストロフィー						
第12週	骨関節疾患						
第13週	二分脊椎						
第14週	その他(子どもの高次脳機能障害、内部障害など)						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 2 授業内容を復習し、疑問点があれば次の授業で質問すること。						